

風景にひとめぼれしてかのやに決めました

佐藤 博之
佐藤 多紀子



佐藤さんのタイムライン

- 令和3年2月 初めて鹿児島県を訪れる。鹿屋市を通過した際の風景にひとめぼれ
- 令和3年4月 美里吾平コミュニティ協議会の移住体験用住宅「吾楽暮」で2週間の移住体験
- 令和3年7月 空き家バンク制度を利用して鹿屋市に移住
- 令和4年1月 定住のため、自宅を建設中

深水さんのタイムライン

- 平成16年4月 大学を卒業し、福岡県内の空調関係の会社に就職
- 平成23年 鹿屋市に帰郷し、両親が経営するパン屋の手伝いを行う
- 平成24年 福岡県内のパン屋に就職。勉強のため、9年間に3店舗で研鑽を積む
- 令和2年7月 鹿屋市に戻り「Cafe'Boulange Mai」を開業

故郷を盛り上げたいと思いかのやに決めました

深水 拓郎



住んでみて実感したことは人の温かさ。地域の人や店員、市の職員などとても優しく親切に接してくれます。移住体験中に知り合った東京からの移住者の方も相談に乗ってくれたことも、移住に伴う不安の解消に

東京都から鹿屋市のことを調べ、地域活力推進課へ電話。2週間の移住体験のために再び鹿屋市を訪れました。体験期間中に移住先となる家を探して不動産屋等の物件を回り、市の「空き家等バンク」制度の登録物件を借りることを決定。引っ越しを行い令和3年7月に移住しました。

子どもたちが独立し、南国でのんびり過ごしたいという想いが、東京からの移住を考えるきっかけでした。都内の移住センターで対応してくれた鹿児島県担当者の印象がとても良く、下見を兼ねて来鹿。そのときに県内一円を車で視察し、大隅半島の佐多岬へ。そこから空港までの道すがら「空が広く開けた田園風景」に出会いました。カーナビには地名が書かれていたものの、それを「かのや」と読むことを後から知りました。

一度きりの人生「納得できる生き方」が夫婦の考え方で、鹿屋市への移住はまさに納得できる選択だったと思います。

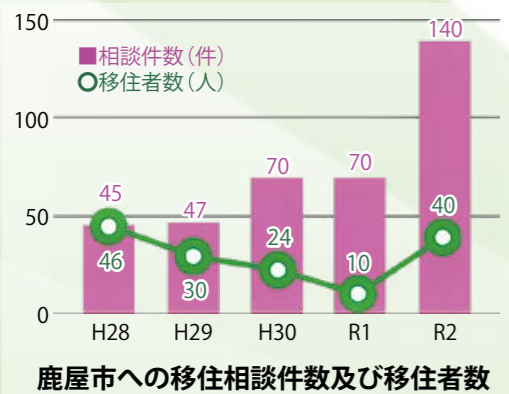
私たちの移住目的のひとつに、自分の子どもや孫たちへ「田舎」をつくらせてあげたいという想いがあります。私たちは東京に住んでおり、子どもたちも首都圏在住。自然豊かな鹿屋に移住して田舎をつくらせてあげることと「田舎に帰る」という体験をさせてあげたいと思っています。魚や肉、野菜などの食べ物についても都心とは段違いにおいしいため、親戚に送ってあげるととても喜ばれます。

つながりました。また、鹿屋市は田舎と都会のバランスがよいと思います。田舎過ぎて不便なことはなく、かといって都会過ぎることもない。移住先にはぴったりだと感じました。



佐藤 博之 さん
佐藤 多紀子 さん

東京都町田市から移住。全国に12か所あるという「天守閣が現存するお城巡り」が道半ばでストップしているため、コロナが落ち着いたら再スタートする予定。



鹿屋市で開業して改めて感じたのは、人が優しくコンビニ対応ひとつ取っても都会に比べて人当たりが良いことです。優しく取り組んでいます。

パン作りで意識していることは、地元や周辺地域の食材をなるべく使用すること。そうすることで鹿屋を盛り上げることができると考えています。これらの食材を使いながら、もっとおいしいパンをお客さんに食べてもらうために、日々試行錯誤しながら取り組んでいます。

大学を卒業後、福岡県で就職しましたが30歳で帰郷。鹿屋市内で両親が経営するパン屋を手伝いました。その中でパン作りを楽しいと感じ、さらにパンについて色々知りたいたいと考え、再度福岡県に渡って9年間で3店舗のお店で働きたりながらパンの勉強をしました。勉強中に「自分の店を持つて経営できるのでは」という手応えを感じ、開業準備に着手。お店の場所については福岡や妻の実家がある佐賀県も候補でしたが、やはり自分のパンの原点は「両親のパン屋さん」であったため、鹿屋市で開業することを決めました。



深水 拓郎 さん

鹿屋工業高校出身。屋号「Cafe'Boulange」はフランス語で「パン屋さんのカフェ」の意。「Mai」は仏語で「5月」の意味で、飼っている犬の名前「さつき」から取った。最近嬉しかったことは、お客さんの子どもが「このパンおいしいから好き」という声が厨房に聞こえてきたこと。



Cafe'Boulange Mai (旭原町 3624-1)
instagram ▶

